令和７年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名	研究1　　研究部（医学部）
中間責任者②（部長・委員長等）氏名	医学部長 金子一成

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題、⑤自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）					教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告（案）	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	科学研究費助成金を始め外部資金獲得の向上を戦略的・計画的に図る。 （中期計画：大学全体として文科省採択件数250件・採択金額4億円）	①②	令和7年度の採択状況は、大学全体で採択件数252件、採択金額は477百万円（医学部：採択件数195件、採択金額390百万円）と中期計画目標を達成している。	S	令和7年度は、大学全体として採択件数及び採択金額ともに中期計画目標を達成した。また、令和8年度の申請状況も大学全体で462件（前年度比105%）、医学部で372件（前年度比104.7%）と堅調に推移している。	順調な進捗を確認した。	S	採択件数、金額とも目標を達成した。
	2	戦略的な論文校正・投稿支援、補助金や間接経費を活用した共通機器・設備の充実、並びに研究環境の更なる拡充を図る。 （論文校正・掲載支援目標値：60件、17,000千円）	①②	令和7年7月末時点で、校正支援が16件、投稿支援が12件、計28件、支援額6百万円と順調に推移している。また、私学助成による1/2補助、2/3補助の研究機器も申請し、研究環境の充実に努めている。	A	令和8年1月時点で、校正支援が36件、投稿支援が20件、計56件、支援額1,400万円と目標値を達成する見込である。また、1/2・2/3助成も研究装置、研究設備、教育装置とも採択され機器購入を実施し、更に今年度の補正予算にて研究装置、研究設備を追加申請する予定である。	順調な進捗を確認した。	S	校正、投稿支援は目標を達成する見込みであり、かつ1/2、2/3補助の私学助成にも申請し研究環境の充実を図ることができた。
	3	研究医長会議を軸に臨床医学の研究活動に係る業務支援を推し進め、若手研究者の研究時間確保に結びつける。 （高度医療人材養成拠点形成事業6年間目標値：週の平均教育研究時間5時間以内である若手教員比率42%→34%、事業2年目）	②	現在、研究医長会議では 【臨床統計解析支援WG】、 【臨床データ抽出支援WG】、 【生成AI論文作成支援WG】 が立上り、臨床系教員の業務支援、研究時間確保に向けた取り組みを進めている。	B	統計解析は学内外の有識者によるサポート体制を構築中であり、臨床データ抽出支援は令和8年度スタートが決定している。また、生成AIによる論文支援は現在教員によるトライアルが実施中であるなど、臨床系研究者の研究環境の整備が具体的に進み、次年度には一定の効果を期待する。	順調な進捗を確認した。	B	研究活動の整備に向け具体的に進みだしたところであり、次年度の活動に期待する。
	4	近隣の大学と締結した包括協定を基に、大学間共同研究、研究施設・設備の共同利用等を進める。	②	現在、複数の在阪大学との共同研究を進めるべく調整中であり、今後いろいろなかたちで発展することが見込まれる。	B	大阪工業大学と具体的な共同研究プロジェクトが3件進むなど、今度の発展が見込まれる。	順調な進捗を確認した。	B	具体的に進みだしたところであり、次年度の活動に期待する。
	5	医療ニーズ・シーズに基づく外部資金獲得、戦略的社会実装を推進する。 （外部資金獲得目標金額（科研費を除く、AMED、JST等総額）３億円以上、産業界との共同研究、受託研究の件数総計90件以上）	③	令和7年7月末時点で、受託研究32件、共同研究19件、計51件と目標値に57%の達成率と好調に推移している。	A	令和8年3月末で、受託研究86件（新規49件、延長37件）、共同研究32件（新規15件、延長17件）計118件と目標値に達成している。外部資金は2.8億円で、3億円には届かなかった。	順調な進捗を確認した。	A	獲得件数は達成したものの獲得金額は未達であり、次年度の活動に期待する。
期中追加 目標・計画									

令和７年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名	研究2　　研究部（看護学部）
中間責任者②（部長・委員長等）氏名	看護学部長 加藤令子

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題、⑤自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）					教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）	該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告（案）	
			途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1 科研費の採択率75%以上、及び外部研究資金の採択率の向上を図る	①③	・2025年度科研採択率71.1%(新規採択率48%）、2024年度科研採択率63.6%(新規採択率42.9%）であり、採択率は向上 ・外部研究資金採択２件 公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 一般社団法人 日本私立看護系大学協会 若手研究者研究助成	A	・2025年度科研採択率は、71.1%と目標を達成できていないが、2024年度採択率からは大幅に増加 ・外部研究資金採択：３件 1)公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団、2)一般社団法人 日本私立看護系大学協会 若手研究者研究助成、3)公益財団法人 稲盛財団 ・外部研究資金採択審議中：１件	順調な進捗を確認した。	A	採択率の目標値に僅かに届かなかったものの、前年度に比べ大幅に増加した。次年度更なる増加を期待する。
	2 英文論文投稿への支援を継続し、英文誌掲載数の増加を図る（10掲載数以上）	①③	・論文掲載：２件 ・論文掲載予定：1件 ・論文投稿中・掲載準備中：教員と博士後期課程修了者により数件	S	・論文掲載数：14件 ・論文投稿支援数：7件 ・博士後期課程修了者数名が掲載準備中	順調な進捗を確認した。	S	目標値を達成するとともに、投稿支援件数も増加した。
	3 海外の研究者との共同研究を推進する	①④	・９月にアメリカの２大学院を訪問し、本学教員の研究５課題についての共同研究を推進	A	・St. Cathetine Universityと、COIL(Collaborative Online International Learning)を活用した共同研究を推進するための準備を開始 ・2026年９月にアメリカの３大学院教員を招聘したDNPに関するシンポジュームを開催、DNP活動のout comeに関する共同研究を推進予定	順調な進捗を確認した。	B	共同研究推進のための準備が整い、次年度の活動に期待する。
	4 臨床看護学教員と連携し、ケアの質向上に寄与する研究を推進する	①③	・本学部教員の科研1件に臨床看護学教員が共同研究者となりケアの質向上に寄与する研究を推進 ・看護キャリア開発センター「看護研究支援部門」において、連携の重要性について説明し、推進予定	B	・科研１件において臨床看護学教員との研究をすすめ、ケアの質向上に寄与 ・看護キャリア開発センター「看護研究支援部門」で連携の重要性を継続して説明、推進中	順調な進捗を確認した。	B	更なる活動を期待する。
	5 KMU看護学部研究コンソーシアム助成による教育の質向上を図る研究を推進する	③	・学部「災害看護論」の教育の質向上と大学院博士前期課程に「災害看護学」のAPN教育課程開設準備として、研究課題「能登半島地震被災地におけるコミュニティ・レジリエンスを高める要因の検討」を採択	A	・2028年度に大学院博士前期課程に災害看護学のAPNコースを開設予定、本研究を活用しながら日本看護系大学協議会への申請の準備を開始 ・学部「災害看護論」の教育内容にも反映	順調な進捗を確認した。	A	災害看護学領域の開設に向け、手続きを進めることができた。
期中追加 目標・計画								

令和７年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名	研究3　　研究部（リハビリテーション学部）
中間責任者②（部長・委員長等）氏名	リハビリテーション学部長 飯田寛和

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題、⑤自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告（案）	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	4月に開学した大学院生涯健康科学研究科の体制の構築を図る	②	今年度入学した9名の院制に対し主副指導教員による指導体制、研究計画書作成指導等円滑な研究体制を構築した。7月に中間報告会を行った。	S	特に問題なく計画通りの大学院教育・研究を実施することができた．来年度は11名入学することが決定している．	順調な進捗を確認した。	S	研究科は着実に入学者を延ばすことができた。
	2	外部研究資金の申請書作成指導等、若手研究者の研究活動を推進できるよう支援を行う	④	研究助成申請書の作成指導や研究機器貸出等、若手研究者の研究活動支援を行った。	A	研究助成申請の支援を行った。研究支援者を雇用し、若手研究者の研究活動が推進できるよう環境を整えた。	順調な進捗を確認した。	A	支援体制を整えることができた。次年度は成果につなげてほしい。
	3	学術論文数年間30報を目指す	④	8月22日の時点で論文掲載数は16本で目標に達成する見込みである。	S	学術論文は31報を達成した	順調な進捗を確認した。	S	目標値を達成することができた。
	4	科研費をはじめとした外部資金獲得強化の取り組みをを充実させる	②④	若手教員を中心に科研費等申請書類をURAに相談し、より良い申請書作成に取り組んでいる	A	若手教員数名がURAに相談し、科研に申請した。	順調な進捗を確認した。	A	URAを活用し、申請数増加に努めることができた。更なる増加を期待する。
	5	学部横断型共同研究や企業との産学共同研究などを推進する	④⑤	今年度より大阪工業大学との連携研究を計画し産学連携につなげたい。6月より小野薬品との産学連携を開始した。	S	令和７年度大阪工業大学との学術・研究連携協定に基づく共同研究2件が採択された。また、関西医大全学部で大工大との大学院連携・作業部会が立ち上がった。小野薬品との共同研究を開始し、新たな移乗支援機器の開発に向けての研究を行っている。	順調な進捗を確認した。	S	大阪工業大学との連携が進み、今後が期待できる成果を出した。
期中追加 目標・計画									

令和７年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名	研究4　生命医学研究所運営委員会
中間責任者②（部長・委員長等）氏名	附属生命医学研究所長 日笠幸一郎

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題、⑤自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）					教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）	該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告（案）	
			途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初目標・計画（５つまで）	1 基礎臨床連携研究、産学官共同研究、国際共同研究の推進	①②	基礎臨床連携研究80件、産学官共同研究9件を推進	S	基礎臨床連携研究90件（オミックス解析759検体・ゲノム改変動物樹立22系統、胚操作凍結保存35検体）、学外共同研究72件、国際共同研究7件、産学官共同研究9件を推進	順調な進捗を確認した。	S	着実に成果を上げることができた。
	2 独自性や特色ある研究の開拓および論文発表・学会発表の促進	①②	論文10報、著書2編、学会21題を発表	S	論文25報、著書2編、学会51題を発表	順調な進捗を確認した。	S	着実に成果を上げることができた。
	3 科研費・AMED等の公的研究資金の獲得	②	科研費44件、AMED5件、助成金20件を獲得、特許5件を出願	A	科研費44件、AMED5件、助成金20件を獲得、特許5件を出願	順調な進捗を確認した。	A	次年度更なる増加を期待する。
	4 研究医養成コース、学部・大学院教育の推進	②④	研究医養成コース7名、大学院生7名を指導、医学部30コマ・大学院39コマの講義を実施	S	研究医養成コース12名、大学院生7名を指導、配属実習29名を受け入れ、医学部72コマ・大学院60コマの講義を担当	順調な進捗を確認した。	S	これまで少なかった学生教育に大いに貢献した。
	5 研究所共同研究施設の管理・運営サポート	①④	綜合研究施設・臨床研究支援体制を拡充、バイオバンク管理体制の強化	A	検体採取中央化を確立し、綜合研究施設・臨床研究支援体制を強化。基礎臨床19講座の支援を実施。オルガノイド作成支援等、バイオバンク管理体制の拡充を図り2,672検体と56画像データを保管。	順調な進捗を確認した。	A	支援体制の強化に努めた。体制強化による成果向上に期待する。
期中追加目標・計画								

令和７年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名	研究5	光免疫医学研究所運営委員会
中間責任者②（部長・委員長等）氏名		附属光免疫医学研究所長 小林久隆

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題、⑤自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）					教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項（※1）	中間報告	最終報告	中間報告評価	最終報告（案）	
				途中経過・状況	評価（※2） / 部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	統括部門および3つの研究部門（基盤開発部門、免疫部門、腫瘍病理学部門）において適切な人材の確保を進め、最終的には総勢30名程度の研究所とし、日本光免疫療法研究会の事務局を本学に設置・運営。	①②	日本光免疫療法研究会事務局として活動	A 大学院生、博士研究員増員。日本光免疫療法研究会事務局として活動	順調な進捗を確認した。	A	研究者の確保が進んだ。
	2	本学附属病院の光免疫療法センターと連携して臨床研究を進め、光免疫療法実施後の臨床検体を解析し、様々な臨床データを得ることで、光免疫療法の発展に貢献。	①②	臨床研究を開始、2症例実施	B 臨床研究を開始、2症例延べ5回実施	順調な進捗を確認した。	B	次年度、益々の発展を期待する。
	3	本学内における共同研究を積極的に行い、光免疫療法のさらなる発展および本学の研究力向上に貢献。（数値目標：研究所全体として学内共同研究10件以上）	①	複数の学内共同研究を実施中	S 学内共同研究：18件	順調な進捗を確認した。	S	目標値を達成することができた。
	4	外部（大学、研究所および民間企業）との共同研究を積極的に推進し、光免疫療法の研究拠点となることを目指す。（数値目標：研究所全体として進行中の共同研究20件以上）	①②	複数の民間企業との共同研究を実施中	A 学外共同研究（契約有）：10件 その他共同研究10件以上	順調な進捗を確認した。	A	更なる共同研究の増加を期待する。
	5	光免疫療法および関連する分野の研究を推進、外部資金の獲得および成果の報告。（数値目標：研究所全体として外部資金新規獲得5件、国際誌への発表5報以上）	④	科研費を新規に2件獲得 複数の論文発表	A 科研費：新規2件 国際誌への論文発表：12件	順調な進捗を確認した。	B	科研費の新規採択は2件にとどまった。次年度に期待する。
期中追加 目標・計画								

令和７年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名	研究6	図書館管理委員会
中間責任者②（部長・委員長等）氏名		附属図書館長 伊藤量基

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題、⑤自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）					教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）	該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告（案）	
			途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1 教育・学習環境・研究発信基盤の充実に努める。	①	医学部教学懇談会における学生からの要望を受けて、本館の開館時間延長を試行、利用状況を踏まえ、土曜日・日曜日・祝日について21時まで開館時間を延長した。	A	開館時間を延長し、学習環境の向上を図った。4-12月の延べ学生入館者数は1,351名増の7,706名（昨年同月比121.3%）であった。 また、OA加速化事業により整備した機関リポジトリについて、研究者による論文登録を支援するとともに、マスタ整備による作業効率化に取り組み、研究発信基盤の充実を図った。	順調な進捗を確認した。	S	開館時間の延長により、学生の入館者が増え学習環境の向上に寄与したことは評価できる。また、機関リポジトリも大いに活用できた。
	2 3学部各々のカリキュラム・ポリシーに沿った資料を収集し蔵書の充実を図る。	②	各学部とも図書委員及び教員に学生用図書の推薦を依頼し、結果に基づいて受入を行った。	A	各学部とも年2回学生用図書の推薦を図書委員及び教員に依頼し、結果に基づき880冊を受け入れた。	順調な進捗を確認した。	A	着実に実行できた。
	3 資料配架スペースの有効利用。	④	書架狭隘化が進行しており、資料配架場所の捻出が課題となっている。現配架資料の発行年、利用頻度を確認のうえ、資産処分差額内での除籍を検討している。	B	電子版が新規公開された資料を調査し、未製本雑誌730冊（消耗品）につき除架を行いスペースを確保した。引き続き今年度の資産処分差額を踏まえ、配架スペースの有効利用に努める。	順調な進捗を確認した。	B	次年度、更なる対応を期待する。
期中追加 目標・計画								

令和７年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名	研究7	イノベーション・ベンチャー推進室
中間責任者②（部長・委員長等）氏名		イノベーション・ベンチャー推進室長 倉田宝保

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題、⑤自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）						教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）		該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告（案）	
				途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1	文部科学省等が実施するプロジェクト事業の情報収集、企画立案を的確に行い、採択への取り組みを強化する。	②	文科省等関係省庁の審議会や国の政策動向に関して積極的な情報収集を行っている。令和7年度は近畿大学を代表とし、大阪医科薬科大学、兵庫医科大学と連携して、文科省「医学系研究支援プログラム」の申請を行った。	A	文科省等関係省庁の各種審議会や予算案等に関して積極的な情報収集・事業申請に係る企画立案を推進した。またURAが研究部と連携して積極的に公募情報を発信した。 文科省「医学系研究支援プログラム」については残念ながら不採択となったが、文科省補正予算「大学病院機能強化推進事業」について附属病院と連携し申請を行った。	順調な進捗を確認した。	A	関係省庁の情報収集、学内発信を積極的に実施。「大学病院機能強化推進事業」の採択を期待する。
	2	URAと連携して科研費等の公的研究費獲得等に対する研究支援強化に係る企画立案を行う。	②	全学的な科研費説明会等にてURAから国の政策動向やトレンドを踏まえた情報提供及び申請書類作成に係る指導を行った。また個別教員からの相談に応じた助言や書類作成支援に加え、事業にマッチする教員をピックアップし応募を促すなど、積極的な支援を行った。	A	全学的な科研費及びその他の公的研究費の説明会や公募情報の提供、個別教員からの相談に応じた助言や計画調書等作成支援、文科省等の事業にマッチする教員への応募促進・支援伴走など、積極的な支援を行った。	順調な進捗を確認した。	A	外部資金は着実に採択が増え、積極的な支援が結果として表れている。
	3	文部科学省私学助成の各事業（研究装置、教育装置、研究設備、教育基盤設備）に関する補助金獲得に向けた企画立案を行う。	④	令和7年私学助成の獲得に向けて、外部資金獲得戦略会議にて申請事業や計画調書内容等を審議した上で申請を行った。	S	令和7年度私学助成に関しては、申請した3件（研究装置、研究設備、教育装置）すべて採択された。さらに補正予算にて追加公募されている事業についても関係部門や担当教員等と連携し申請を行った。	順調な進捗を確認した。	S	確実に目標を達成した。
	4	関係部署と連携して私立大学等改革総合支援事業における採択の維持、獲得点数の向上に取り組む。	②	前年度からの変更点や未達項目等について、関係部署と連携し改善に向けた状況把握・検討を進めた。各部署が担当する項目の取組状況等について、外部資金獲得戦略会議にて審議を行い、取組を強化している。	A	関係部署と連携して点数改善を促進し、申請を行った。2月下旬頃に採否が確定し、3月中旬頃に補助金額が確定する見込みである。 また今後のさらなる加点に向けた取り組みも検討を進めている。	順調な進捗を確認した。	A	点数確保を目指し、関係部門と取り組みを進めることができた。採否結果に期待する。
	5	「医師の働き方改革に伴う大学病院改革プラン」の策定に関連して、教育研究機能の維持・向上に関する方策を取り纏め、外部資金の獲得増等につなげる。	③	「大学病院改革プラン」に対応した形で、文科省「高度医療人材養成拠点形成事業」に関する様々な取組を推進している。	A	文科省「高度医療人材養成拠点形成事業」については順次様々な取組を実施している。さらに補正予算「大学病院機能強化推進事業」に関して、大学病院改革プランに基づき附属病院の機能強化および教育研究高度化に向けた計画を策定し申請を行った。	順調な進捗を確認した。	A	「大学病院機能強化推進事業」の採択を期待する。
期中追加 目標・計画		地域へのアウトリーチ活動として、自治体等と連携しながら本学の特色ある研究や取り組み等について発信する。	④	枚方市と連携し、大阪・関西万博にて、「高度医療人材養成拠点形成事業」での取り組みを中心とした本学の特色ある先進医療研究に関する展示・セミナー及び体験型キッズセミナーを実施した。	S	5月の大阪関西万博での展示・セミナー等は非常に盛況で多くの来場者で賑わった。さらに8月のイタリアパビリオンでは医工学及びリハビリテーションに関する研究の発信を行った。これに加え10月のひらかた万博PRイベントでの先進医療研究に関する展示実施など、自治体等と連携して本学の特色ある取り組み等を積極的に発信するアウトリーチ活動を推進した。	順調な進捗を確認した。	S	枚方市と連携し、積極的なアウトリーチ活動を展開した。万博での活動もあり、評価できる。
期中追加 目標・計画									

令和７年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名	研究8	臨床研究支援センター運営委員会
中間責任者②（部長・委員長等）氏名		臨床研究支援センター長 倉田宝保

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題、⑤自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）					教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）	該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告（案）	
			途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初 目標・計画 （５つまで）	1 ＣＲＣによる個別支援を拡充させ、研究力強化に向けた研究環境の向上に取組む。	② ③	研究支援強化の学長方針に基づき積極的なCRC支援を展開。全学で6件の新規支援を獲得し、現在16件を支援中。今後さらに全学への広報PRを進め支援拡大を図る。	A	研究支援強化の学長方針に基づき積極的なCRC支援を展開した。全学で6件の新規支援を獲得し、現在16件を支援中。さらに次年度に向け4件の新規支援が決定し開始準備を進めている。全学へ広報PRを進め支援拡大予定。	順調な進捗を確認した。	A	積極的に活動することができた。更なる活動を期待する。
	2 臨床研究支援センター５部門の機能的運営を図り、各所掌業務を着実に実施する。	③	各部門の活動進捗をセンター全体会議で管理し計画を推進。特にデータ管理部門はイノ・ベン推進室と協同しデータ集積管理システム（RED-Cap）の導入に向けた具体的な検討を開始した。	A	データ管理部門はイノベ推進室協同でデータ集積管理システム（RED-Cap）の導入に向け開発元のVanderbilt大学との契約を締結。臨床・学術研究の質・量及び集積データの信頼性を高め大学の研究力向上に向け、具体的なシステム設計を進めている。	順調な進捗を確認した。	A	データ管理部門での活動は進んだ。他部門の事業推進を期待する。
	3 臨床研究力の強化・向上に資する講習会・ワークショップ・相談会を開催する。	④	計画どおり前期に講習会１回、ワークショップ１回を開催。後期も同数の開催を予定。なお、教育受講状況者数は前年同月比達成率120%、相談会開催は同率115%（8月末）を達成した。	B	全学で取組むFDの充実に参画するため当センター開催の講習会もFDと位置づけることで相乗効果を得た。年間で講習会２回、ワークショップ２回を開催し、指標となる教育受講状況者数及び相談会開催回数はいずれも前年実績をクリアした。	順調な進捗を確認した。	A	受講者数、相談会開催数は前年実績をクリアし着実に実行できた。
	4 附属４病院との連携・調整を適切に行い、大学全体の臨床研究支援体制を構築する。	③	総合医療センター分室の支援を活性化させ、2件の新規支援を獲得、現在3件を支援中。後期は香里病院への広報PRを進め支援拡大を図る。	B	総合医療センター分室の支援を活性化させ、2件の新規支援を獲得、現在3件を支援中。香里病院への積極的な広報PRを実施した。次年度の依頼（支援拡大）に期待する。	順調な進捗を確認した。	B	分院での支援数増加を期待する。
	5 臨床研究に係る関連法令の改正に適切に対応し、規程・手順書等を点検・整備する。	④	臨床研究法改正にともなう大学全体の標準業務手順書の改正を完了。現在、付随する部署内手順書の改正手続きを進めている。	B	令和7年5月31日施行の臨床研究法改正にともない、大学全体の標準業務手順書および付随する部署内手順書の改正手続きを行った。	順調な進捗を確認した。	A	手順書の手続きは完了できた。
期中追加 目標・計画								

令和７年度　内部質保証　目標・計画シート　（教育研究推進委員会）

委員会・組織名　研究9	倫理審査センター運営委員会
中間責任者②（部長・委員長等）氏名	倫理審査センター長 蔦　幸治

※1該当事項
①新中期計画、②当年度事業計画、③前年度最終報告課題、④独自の課題、⑤自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載してください。

※２評価
Ｓ：優れて達成している　Ａ：やや優れて達成している　Ｂ：概ね達成している
Ｃ：やや達成が不十分　Ｄ：全く達成できていない

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で「端的に」、文末は「だ・である」調、もしくは体言止め）					教育研究推進委員会による点検・評価		
	目標・計画（具体的、かつ実現可能なもの）	該当事項（※1）	中間報告	最終報告		中間報告評価	最終報告（案）	
			途中経過・状況	評価（※2）	部門講評		評価（5段階）	講評
当初目標・計画（５つまで）	1 本学の適切な研究に資する、倫理審査・申請に係る業務を適正・円滑に遂行する。	②③	委員会審査・報告を含む倫理審査を適正円滑に実施した。	B	委員会審査・報告を含む倫理審査を適正円滑に実施した。	順調な進捗を確認した。	A	大きな問題なく進めることができた。
	2 倫理指針及び関連法令の改正に適切に対応し、規程・手順書等を点検・整備する。	③	指針改定はないが軽微なひな形の改正により審査効率化を図る（準備中）。	B	指針改定はないが軽微なひな形の改正を行い、申請及び審査の効率化を進めた。	順調な進捗を確認した。	B	指針の改定がなかったため、軽微なひな形の改正に留まった。
	3 実施状況報告書・終了報告書・モニタリング及び監査報告書の提出を促進する。	③④	同左提出状況を把握し、特にモニタリング及び監査報告書の督促を予定（10月～1月）。	A	同左提出状況を把握し督促を実施。次年度に向けシステム機能追加を見積中。多機関共同研究における共同機関の実施許可手続漏れを防ぐため教授会及び一斉メールにて周知を実施した。	順調な進捗を確認した。	A	手続漏れを防ぐための方策を検討し実施した。更なる活動に期待する。
	4 センター業務の効率化に向け、倫理審査申請システムの機能をさらに改修する。	④	本年度の改修項目を集約中。業者に見積依頼する予定（12月）。	S	＜本年度改修実績＞ 1. 書類アップロード機能（ペーパレス化及び検索速度）2. 担当宛自動メール機能（可視化による審査停滞防止）3. 情報公開機能（研究一覧及び文書公開のホームページ掲載自動化）4. 倫理講習ワンボタン督促機能（未受講研究者の削減） ＜次年度改修予定＞ 1. 定型コメント選択機能（事務局工数の削減）2. 報告書提出督促機能（文書による周知の削減）3. 変更申請事項選択機能（申請簡易化及び会議資料作成効率化）	順調な進捗を確認した。	A	業務効率化に向け一部、システムの改修を進めた。次年度も引き続き改修予定であり、より一層の効率化に期待する。
	5 研究者及び委員等の教育・研修受講を促進させ、個別相談等の支援体制を強化するとともに、各附属病院の倫理審査の支援を強化し大学全体としての質向上を図る。	③④	くずは病院を加え大学及び附属4病院の倫理審査委員会を倫理審査センターの所管とした。事務査読支援など連携を強化し大学全体の審査品質の平準化を図っている。研	B	くずは病院を加え大学及び附属4病院の倫理審査委員会を倫理審査センターの所管とした。事務査読支援など連携を強化し大学全体の審査品質を平準化した。研究者の倫理審査にかかる相談に対応し、研究内容にかかる相談は	順調な進捗を確認した。	A	くずは病院にも倫理委員会を設置しセンターが所管することに変更した。全学レ
期中追加目標・計画								